

第2回 四国生物多様性会議 高知グループワーキングレポート

f. 「海」 レポート
<p>テーマ：高知の海・海岸 参加者：20名</p>
<p>カテゴリー1</p> <p>【漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漁師さんの網にはたくさんのものが入るのですが、利用されずに捨てられているものがたくさんあります。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁獲物とゴミ</li> <li>・利用する側の問題。売れるものと売れないもの＝買いたいものと買わないもの</li> <li>・売れないもの＝食べられないもの、利用できないものではない</li> <li>・コミュニケーションができていない→情報を伝える&amp;価値を与える</li> </ul> </li> <li>●漁業との共存             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用していない生き物の扱い</li> <li>・保護に関心のない地方の人にどう大切さに気づきわかってもらうのか</li> </ul> </li> <li>●香川のイブキ島             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用可能な漁獲物が全て流通に乗るようにできないか</li> <li>・高知は漁業が厳しくなっている（原因ははっきりしない）</li> <li>・行政は漁獲高（＝金）、漁師は漁獲量（＝量）を気にしている→異なる価値観</li> <li>・産物の変化（温暖化）と食文化とのギャップ</li> <li>・第二次大戦中、ほとんど漁業が行われなかったので資源が増えた。そのときの漁獲量が記憶に残っている→そのまま続けられれば乱獲になる</li> <li>・乱獲による漁獲量を基準に考えてはいけない</li> <li>・高知は海が広すぎてどこを見て良いかがわからない</li> </ul> </li> <li>●「漁業」の多様性も守りたい</li> <li>●ひとにとって豊かな海 ＝ ひとつのものがたくさん             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性とは必ずしも一致しない？</li> </ul> </li> <li>●カツオ（回遊魚）の多様性戦略への位置付け             <ul style="list-style-type: none"> <li>・外洋はまだ相手にできない 浅海で何が起きているか？</li> </ul> </li> <li>●養殖のエサやりが与える影響</li> <li>●ピンと来ない</li> <li>●里山の保全→海の保全（海岸近く）につなげられないか？             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「流域」の考え方</li> <li>・漁師が山に木を植える</li> </ul> </li> </ul> <p>カテゴリー2</p>

### 【人工海岸】

- 砂が少なくなった浜を元にもどすことはできるか？できるとしたらどうやって？
  - ・自分も子供の頃（20数年前）一年中室津の浜で遊んだ 浜弁当が懐かしい
  - ・砂浜とは？ 砂は流れていくけどすぐに溜まる場所
  - ・（急ぐ）砂を持ってくる・構造物を作る→どこか他で砂が無くなる
  - ・（長い目）砂がどう動くのかをみて安定しているところに貯める→時間がかかる
  - ・高知には自然海岸が少ない 特に東は護岸 西は山が海まで迫っている
  - ・子供の遊び場が少ない→昔はお弁当持って遊びに行った
  - ・この頃は海水浴は流行らない
  - ・大人はサーフィン
- 海面が上がって小さい島が無くなったとき、渡り鳥はどうする？休む場所とか…
  - ・人工の埋め立て地に砂浜作れないの？
    - 一部を残して保護区や海水浴場にする
    - 全て埋め立てるよりはまし？砂も少しは動いている？（徳島で実施例有り）
  - ・砂貯めは砂浜ではない
  - ・替わりのものを作るから今のものはこわしても良い（ミチゲーション）という考えはおかしい
    - 「埋めて良かった」という声はない
    - 「作ったものをこわした」例はあるか？
      - 愛知県遠州灘の護岸：“ウミガメが来る”を武器に!!
- 高知の海岸沿いで生活する人々の海との関わり方（津波の危険）

### カテゴリー 3

#### 【環境学習】

- 海の環境学習はネタが多い
  - ・親子の教室：子供の環境学習をネタに大人が勉強
  - ・良い海だけでなく悪い海も教材になる
  - ・昔の暮らし「子供が貝を獲り売ってお小遣い稼ぎ」という関わり方もあった
  - ・まずはその海に何がいるかを知って伝えていく
- 取り組む人や施設にかたよりがある。
  - ・高知は四国の他県より研究機関や取り組み拠点が多い
  - ・他県の良い取り組みを知ることが必要
  - ・山（陸上）はよく見える。海の中は見えない→意識して見ないと見えない
  - ・海の中で起こっていることを知るためのしくみ作りが必要
- どうしたら地元の人に興味を持ってもらえる？
  - ・海や海の生物を知ってもらえれば海を好きになる

- ・ 桂浜に来る人の 1/5 も水族館には入らない。
- ・ 昔は海水浴→今は海離れ
- ・ 小学生の磯観察やキャンプの機会が少ない もっとふやしてほしい
- ・ 他所（都会）から来ると自然が多いと感激するが住み慣れると普通になる→旅人を呼びこむ
- ・ 地域のイベントとコラボする。
- 観光業でも「海」で人を呼びにくい
  - ・ 海の生物多様性で人を呼ぶことができるか？
  - ・ イベントを増やす→食べ物や酒のイベントが有効!!
  - ・ 食べ物によって人を呼ぶ町興しの若者グループがある
  - ・ 自転車によるエコツアーの活動（サイクルスタンド）
  - ・ 海遊びは夏だけのものではない
- 亜熱帯化している海
  - ・ 子供への伝え方→今後どうなるかのイメージができない
    - ↓ どう影響するのかを具体的に伝えたい
    - ネガティブに伝えすぎるのも問題
    - そもそも本当に温暖化が悪いのか？
    - ↓
    - 子供には現象だけ伝えるべき？

#### カテゴリー 4

##### 【その他】

- 皆さんにとって生物多様性って何？
  - ・ どうやって生まれ、どう変わるもの（こわれるもの）？
  - ・ なぜ大切？ 何をどこまで許す？ 何を守りたい（取り戻したい）？
  - ・ 金のなる木？？ どういう社会（海）にしたい？
  - ・ 「生物多様性」が単に「金」を得るための **Key Word** でないことを願いつつ
  - ・ 滅茶苦茶になってしまった「海岸」は「金」がついたあかし
  - ・ どんな「里海」を望んでるの？
  - ・ 「高知の海を守る」とは？ どうしていききたいのか？
  - ・ 「生物多様性の保全」とは「生き物が分化する場」を維持すること＝進化ができるように
  - ・ 生物多様性を守る理由は、ヒトが「明日」絶滅しないように＝子・孫の世代、我々はやっていけるか？
- ウミガメや魚類の調査をしていますが、お金がありません。何か良い案、対策はありますか？ お金儲けはどうしたらよいか？
  - ・ 売れない（漁獲物として扱われない）生き物の標本を販売している

- ・「貝」はお金になる？ セット売りや種類を増やす？
- 魚類以外の生物多様性が過小評価気味では？
- ・多様性評価に予算を付られないか？
- ・調査研究の成果を一般の人にどうやって普及するか
- 高知の海の生物多様性ってどのくらい？
- どこまで守るか（範囲）

以上